

## 投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (都市河川係長 糟谷昌俊)	内線	4408 (4417)
------	-------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S58		現計画	再評価時点
事業名	広域一般河川改修事業 (二) 船場川水系船場川	着工年度	S58	総事業費	74億円	35億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	44億円	14億円
事業区間	姫路市飾磨区構～手柄			完成予定年度	H24	-
所在地	姫路市			進捗率 (内用補進捗率)	47%(58%)	35%(42%)

## 事業の目的

## 事業内容

昭和49年7月台風8号（浸水面積254ha、浸水家屋1,214戸）や昭和51年9月台風17号（浸水面積280ha、浸水家屋数3,851戸）等、最近では平成2年9月台風19号（浸水面積9ha、浸水家屋380戸）に見舞われ、沿川の集落は過去から大規模な浸水被害に見舞われてきた。  
このため、当該地域の浸水被害を防止するために、治水安全度1/30を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するものである。

計画流量  $Q = 190\text{m}^3/\text{s}$   
(治水安全度1/30：飯田橋)  
実施内容  $L = 1,535\text{m}$   $W = 32.1\text{m}$   
築堤、掘削、護岸、道路橋5橋等

進捗状況	昭和58年度に着手し、これまでに築堤、河積拡大等を行い、下流より550mを完了させた。 再評価時点（H10）からH15までに、飯田南橋～円寿橋間の用地買収をほとんど完了し、H16から工事着手する予定であり、今後も事業の重点化と効率的な事業執行に努め、平成24年度に事業を完了させる予定である。 また、河川整備計画を現在検討作業中である。
------	--

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	・姫路市南部市街地、公共施設（病院等）を浸水被害から守るため、築堤、護岸、横断構造物の改築等の河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。
(2)有効性・効率性	・ $B / C = 1.19$ ・船場東土地区画整理事業により用地を確保し、効率的な事業執行を行った。 ・姫路バイパス上流左岸部では飯田手柄土地区画整理事業により、用地を確保することとしており、効率的な事業執行が可能である。
(3)環境適合性	・空石張低水護岸や緩傾斜護岸を採用し、また、瀬・淵を作るにより多自然な生息環境を創出する。 ・渇水期のみお筋を確保できるよう低低水路を整備する。
(4)優先性	・残事業区間には、治水上ネックとなる橋梁4橋を残しており、姫路市南部市街地を浸水被害から防御する当該事業の優先性は高い。

再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。
---------	------	------	---------------------